

# 目 次

# 国語 Vol.3

## 第1章

## 第4章

<b>1</b>	文学的文章 (1) (隨筆) .....	13	文学的文章 (6) (小説) .....
<b>2</b>	文学的文章 (2) (隨筆) .....	14	説明的文章 (6) .....
<b>3</b>	説明的文章 (1) .....	15	古典 (1) .....
<b>4</b>	説明的文章 (2) .....	16	文法 (1) (文の組み立て) .....
<b>5</b>	文学的文章 (3) (小説) .....	17	文学的文章 (7) (隨筆) .....
<b>6</b>	文学的文章 (4) (小説) .....	18	説明的文章 (7) .....
<b>7</b>	説明的文章 (3) .....	19	短歌・俳句 (1) .....
<b>8</b>	説明的文章 (4) .....	20	漢字・語句 (2) (類義語・対義語／ことわざ・慣用句など) .....
<b>9</b>	文学的文章 (5) (隨筆) .....	21	文学的文章 (8) (隨筆) .....
<b>10</b>	説明的文章 (5) .....	22	説明的文章 (8) .....
<b>11</b>	詩 (1) .....	23	詩 (2) .....
<b>12</b>	漢字・語句 (1) (漢字の成り立ち／部首／熟語の知識) .....	24	文法 (1) (品詞の分類ほか) .....

## 第3章

## 第6章

## 第2章

## 第5章

## 第7章

25 文学的文章 (9) (隨筆) .....	100
26 說明的文章 (9) .....	104
27 古典 (2) .....	108
28 表現・作文 (1) .....	112
.....	.....
36 表現・作文 (2) .....	148
35 古典 (3) .....	144
34 說明的文章 (11) .....	138
33 文学的文章 (11) (小説) .....	134

## 第9章

29 文学的文章 (10) (小説) .....	130
30 說明的文章 (10) .....	126
31 短歌・俳句 (2) .....	120
32 文法 (3) (単語の識別) .....	116

## 第8章

37 文学的文章 (12) (小説) .....	170
38 説明的文章 (12) .....	166
39 古典 (4) .....	162
40 文法 (4) (文法総合) .....	156
付録..漢字練習 1 ~ 40 .....	152

## 第10章

# 第1章

## 1 文学的文章(1)(隨筆)

### 主題をとらえる

随筆の読み取りでは、文章全体を通じて筆者が最も伝えようとしていること、つまり「主題」をとらえることが大切です。ここでは、出来事（事実）と考えとを読み分けながら、筆者の心情や考えを読み取り、主題をとらえていく手順を学びます。

### 1 隨筆の主題のとらえ方

次のような手順で随筆の主題をとらえましょう。

#### ① 題材となっている出来事（事実）を読み取る

「いつ・どこで・だれが・どうする」などの要素に注目しながら、題材となっている出来事をおさえます。

#### ② 筆者の考え方・感想をとらえる

出来事（事実）に対する筆者の考え方や感想をとらえます。筆者の考え方や感想が書かれている部分は、「～思う」「～だろう」といった文末表現や、直接心情を表したことばなどに注目するととらえやすいでしょう。

#### ③ 全体を通しての考え方・感想をとらえる

文章全体を読み終えたら、各部分で述べられた筆者の考え方・感想を総合的な視点からとらえなおしましょう。各部分で共通している思いや変化した思いなどに注目して、文章全体を通して筆者が何を最も伝えようとしているのかを考えます。それが「主題」です。

先日、池にすむ外来魚を駆除するというテレビ番組を見た。たとえば外来魚のブラックバスは貪欲な魚で、固有種の小魚を大量に捕食するため、従来の生態系を変えてしまう恐れがあるという。なるほど、駆除は当然なのだろうと思つた。

しかし、番組を見ているうちに、こんな気持ちにもなつた。彼らは別に好き好んでここにやってきたわけではない。人間の勝手な都合で連れて来られたのだ。それを今度は都合が悪くなつたからと言つて駆除するのは理不尽なことではないだろうか。

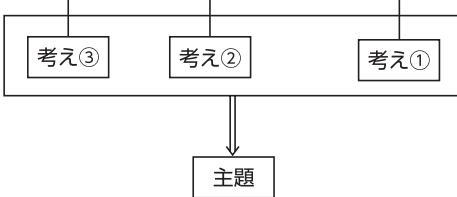
そう考へると、ぼくは何が正しいのかわからなくなり、もやもやした気持ちになつてしまふのだった。

### 例文の設問例

#### ① 本文中で筆者はどのような気持ちを伝えようとしていますか。

↓ 答え③ 答え② 答え①  
筆者は池の外来魚を駆除することについて、「駆除は当然なのだろう」とした一方で、「人間の勝手な都合で、今度は駆除するというのは理不尽」だとも述べています。そして、この相反する二つの思いの間で、「もやもやした気持ち」になつたと結んでいます。これらの思いを総合してまとめたものが、この文章における「主題」です。

(解答例) 外来魚を駆除することは当然なのか、それとも理不尽なことなのかがわからず、もやもやする気持ち。



〈広中平祐「学問の発見」より〉

### 解法のポイント

- (1) 線①「私の給金を仮壇に供えると、私を隣に座らせて、『さあ、拝め』と父はいった」とあります。この時の「私」はどんな気持ちでしたか。書いて答えなさい。
- (2) (1)について、今の「私」はどう感じていますか。それを次のようにまとめた場合、□に入る最も適切なことばを書き抜いて答えなさい。  
 「子供が初めて自分で稼いだことを、□だと考えた父の気持ちが今では理解できると感じている。」
- (3) 「私」が、この文章で最も言いたかったことは何ですか。それを次のようにまとめた場合、□に入る最も適切なことばを書いて答えなさい。  
 「私は、□を学び、自分の人生にも生かしてきたということ。」
- (1) 心情** 全体の話の流れから。人物の心情を読み取ります。ここでは、すぐあとに「その時の私は、(合点がいかなかつた)」と説明しています。その部分をまとめましょう。
- (解答例)** 父のおおげさな喜び方を不可解に思う気持ち。
- (2) 心情** 線①の父の行動についての今の気持ちは、「だが今思うところ」以降に述べられています。この部分から、空欄にあてはまるようにことばを書きぬきましょう。
- (解答)** 拝むに値する尊い、記念すべき出来事
- (3) 主題** 最後から二つの段落に注目して、「私」が父のどのような「身の処し方」を学んだのかをとらえましょう。
- (解答例)** 自分で稼いで自分で食べるという父の身の処し方

**1** 次の文章を読んで、あととの問い合わせに答えなさい。

- べられていますか。次から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。
- ア 時計がないと、時間を効率よく使えず、無駄な一日を過ごすことになるということ。
- イ 時計を持っていなくても、日常生活において、特に問題は起こらないということ。

ウ 日本の社会でも、農業従事者が大部分を占める地域では、時計があまり普及していないということ。

エ 高齢者のように仕事を持たない人であれば、時計を持たなくとも生活していくけるということ。

**□(3) 内容理解**

線③「おおまかなくくり方」とありますが、時を大まかにくくるかつての日本人の暮らしぶりが書かれた部分を本文中から二十九字（読点も字数に数えます）で探し、その最初と最後の五字を書き抜いて答えなさい。

**□(4) 表現内容**

線④「『時のたつのも忘れて』ということ」の具体例として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 宿題は明日やればいい、明日やればいいと思つてているうちに、夏休みの最終日になった。

イ 友達に会う予定があつたのにもかかわらず、うつかり待ち合わせの時間を見失った。

ウ 朝からずっと読書に夢中になつていて、気がついてみれば夕方になつていた。

エ 三年ぶりに会つた幼なじみと、三年間の空白を気にせずに、以前と同じように話すことができた。

〈袖井孝子「時間の話」より〉



**□(1) 語意**

線①「律しよう」とありますが、「律する」の意味として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 管理する イ 実行する  
ウ 考案する エ 分割する

**□(2) 主題**

線②「小さな農村で高齢者に対して生活時間調査を試みてうまくいかなかつたという話」は、どういうことを説明するために述べられていますか。次から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

## 2 次の文章を読んで、あととの問い合わせに答えなさい。

(1) **指示語** — 線①「この機能」とはどのような機能ですか。次から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア 使い方しだいで食物以外のものも運ぶことができる機能。

イ 使い方しだいで日本料理のおいしさを引き立てる機能。

ウ 使い方しだいでどんな食物も口へ運ぶことができる機能。

(2) **表現内容** — 線②「ものが所を得ているさま」とは、どういう様子ですか。次から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア 箸のサイズが、人の手の大きさによく合っている様子。

イ 茶碗が、人の片手の中にぴったりと収まっている様子。

ウ 箸が、人に上手に使われ、精妙にはたらいている様子。

エ 人の背筋が、食事のときに、しゃんと伸びている様子。

オ 茶碗が、人の背筋が、食事のときに、しゃんと伸びている様子。

(3) **語句理解** — 線③「つましい朝食」の意味として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 上品で優雅な朝食。 イ 楽しげで明るい朝食。

ウ 豪華でぜいたくな朝食。 エ 控えめで質素な朝食。

(4) **主題** 本文中から読み取れる「私」の思いについての説明として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 日本人の食事を頼もしく支え続け、また、使う人のその時の状態を表す鏡にもなる箸に愛着を抱いている。

イ 和服姿や純日本建築が珍しくなるとともに、箸の使われる機会がめっきり減ってしまったことを嘆いている。

ウ 気持ちが緩んだり屈したりしているようなとき、箸がその気持ちをしゃんとさせてくれることに感謝している。

〈竹西 寛子 「ひとつとや」より〉

□ (1) 文学的文章 (1) (隨筆)